



令和7年度札幌開発建設部の取組状況について

国土交通省
北海道開発局札幌開発建設部

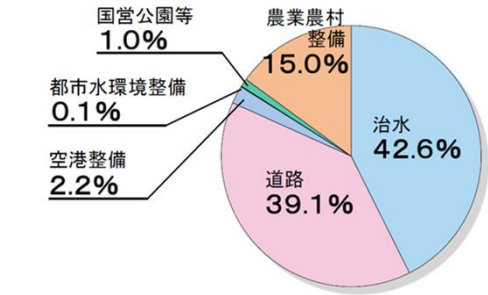


令和8年度 札幌開発建設部事業費総括表

(単位=百万円)

事 項	予 算 額	事 項	予 算 額
治 水	43,991	国 営 公 園 等	1,054
道 路	40,366	農 業 農 村 整 備	15,473
空 港 整 備	2,304		
都市水環境整備	98	合 計	103,287

注) 1. 農業農村整備を除き、工事諸費は含まれていない。
2. 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

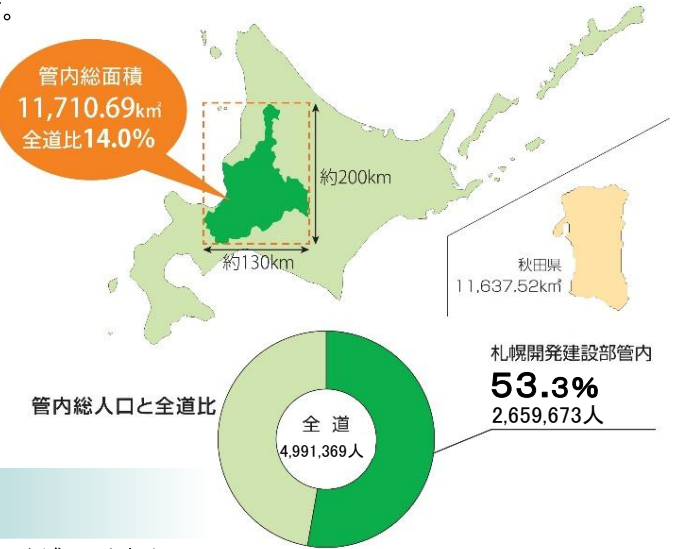


地勢

札幌開発建設部は、石狩・空知の全域と上川地方の一部地域を含む計37市町村からなる広大な地域を所管しており、その範囲は、南北約200km、東西約130kmに及びます。所管エリアの北西部は日本海に面しており、変化に富んだ海岸線に加え、低地帯には砂丘や湿地帯が形成されています。当部には旭岳や夕張岳に代表される山々や丘陵が位置し、中央部には日本三大河川の一つである石狩川が縦走しており、流域には広大かつ肥沃な石狩平野が広がっています。また、管内には支笏洞爺国立公園をはじめとする豊かで魅力ある自然環境が数多く残されています。

面積・人口

管内の面積は約11,711km²で、北海道の面積の約14%を占めており、都府県と比較すると、全国で6番目に広い秋田県とほぼ同じ面積になります。管内の人口は2,659,673人で、北海道の人口の53%を占めており、そのうち73%が札幌市に集中しています。



北海道総合開発計画の推進

北海道総合開発計画は、北海道開発法に基づき、北海道の資源・特性を活かして我が国が直面する課題の解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を図るため、国が策定する計画です。

第9期北海道総合開発計画

新型コロナウイルス感染症の拡大や2050年カーボンニュートラルに向けた国の政策展開、さらにはウクライナ情勢等を背景とした食料安全保障問題の顕在化等、我が国を取り巻く状況の変化を受け、令和6年3月12日に第9期北海道総合開発計画が閣議決定されました。札幌開発建設部では、多様な主体と顔の見える関係を構築しながら、分野を越えた連携・協働による「共創」の取組を引き続き推進します。

計画のポイント

他では代替できない北海道の価値を最大化



北海道の価値を生み出す生産空間の定住環境を維持

人口減少が進む中で定住環境を維持するには、ネットワークの強化とデジタル技術の活用が必要です。さらに、積雪寒冷の厳しい気候、激甚化・頻発化する自然災害への対応として国土強靱化を急ぐ必要があります。

計画の進め方

官民が協働・連携する「共創」の取組



リアルとデジタルの充実

共創の取組事例



教育機関との連携
(R7.10道と川の駅
「花ロードえにわ」での取組)



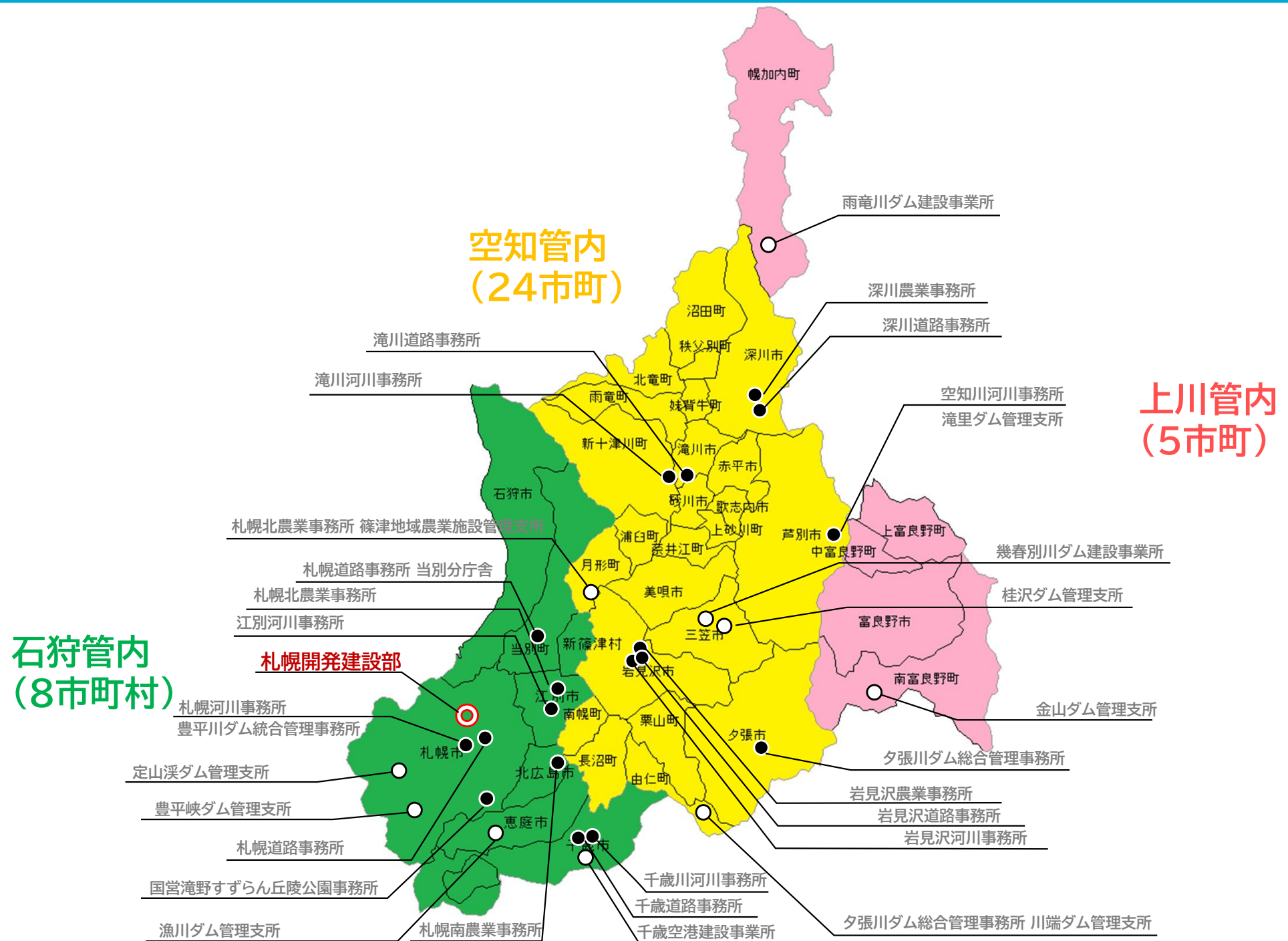
「さっけんセミナー」の開催
(R8.2広報力向上をテーマに、
事例に基づく意見交換)



包括連携協定に基づく取組
(R7.10国道230号中山峠除雪出陣式)

さっけんセミナー開催概要
(札幌開発建設部HP)





取組 1 地域の強みを活かした産業を育成し、本道の経済をリード . . . 1

- 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成 . . . 1

取組 2 地域の資源・特性を活かし、我が国の食料安全保障を支え、脱炭素化を先導 . . . 3

- 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展 . . . 3
- 「わが村は美しく-北海道」運動の推進 . . . 7

取組 3 北海道の自然環境・文化の継承と、地域資源を活かした観光地域づくり . . . 8

- 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり . . . 8
 - ・空港の受入機能強化 . . . 8
 - ・ドライブ観光の推進 . . . 9
 - ・「シーニックバイウェイ北海道」の推進 . . . 10
 - ・サイクルツーリズムの推進 . . . 11
 - ・「かわたびほっかいどう」プロジェクトの推進 . . . 12
 - ・滝野すずらん丘陵公園におけるインバウンド観光の推進 . . . 13
 - ・公共空間の利活用による地域の活性化支援 . . . 14
- 自然共生社会・循環型社会の形成 . . . 15
 - ・石狩川流域における生態ネットワークの形成 . . . 15

取組 4 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり . . . 16

- 多様で豊かな地域社会の形成 . . . 16
 - ・「道の駅」の機能強化、ほっかいどう学の推進 . . . 16
- 激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成 . . . 17
- 災害からの迅速な復旧を支える道路交通ネットワークの強靱化 . . . 19
- 冬期交通の確保 . . . 20
- TEC-FORCE等派遣による被災自治体等への迅速な技術支援及び積極的な情報提供 . . . 21
- 自治体・関係機関が連携した防災教育、防災訓練等の防災対応力の充実・強化 . . . 22
- 防災、通行の安全、景観の向上に資する無電柱化事業の推進 . . . 23
- 交通安全対策の推進 . . . 24
- 交通安全対策事業（令和7年度実施箇所） . . . 25
- 社会経済活動を支えるインフラ施設の老朽化対策 . . . 26
 - ・河川管理施設 . . . 26
 - ・道路施設 . . . 27
 - ・農業水利施設 . . . 28
 - ・空港施設 . . . 29

共創の取組事例 . . . 30

○ 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成

- 道央都市圏と農村地域など生産空間や各地域の中心都市とのアクセス強化を図り、「人流・物流の拡大」や「地域・拠点間の連携」を推進するため、「道央圏連絡道路 長沼南幌道路」、「国道12号 峰延道路」、「国道452号 盤の沢道路」等の事業を推進します。



「人流・物流の拡大」や「地域・拠点間の連携」を推進するため、新たに道路を整備しています。

【道央圏連絡道路 中樹林道路(江別市、南幌町)】
(令和7年3月15日開通)



【道央圏連絡道路 長沼南幌道路(長沼町)】

令和7年度の実施（完了）状況

「道央圏連絡道路 長沼南幌道路」の早期開通を目指し、「国道12号 峰延道路」、「国道452号 盤の沢道路」と共に事業を推進。

地域の強みを活かした産業を育成し、本道の経済をリード

○ 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成

- 北海道全域との広域的な交流・連携機能の確保を目指し、札幌都心部と札幌自動車道を結ぶアクセス道路（国道5号創成川通）の整備を推進します。
- 札幌の玄関口にふさわしい空間の形成と高次都市機能・交通結節機能の強化を目指し、新しいバスターミナルの整備を推進します。



世界へつながる”さっぽろ”の新たな顔づくり

～道都札幌の玄関口にふさわしい空間形成と高次都市機能・交通結節機能の強化～

歩行者動線と待合空間の整備

利用者がわかりやすく快適にバスを待つことができる待合空間を整備
更に、災害時には一時避難場所として機能し、代替輸送拠点や物資集積拠点として活用



バスターミナルの整備

都市間バス、路線バスの集約を基本としたバスターミナルを整備
更に、札幌駅周辺において新たなモビリティ等多様な交通モードとの連携により交通結節機能を強化



高速バスネットワークとの連携

高速バスネットワークとの連携により北海道特有の広域分散型地域構造に適応した、より快適で効率的な広域移動が可能となり新たな人流を創出



創成川上空歩行者動線の整備

創成川の上空を横断する歩行者ネットワークの形成により、創成東地区との交通結節機能を強化



新幹線駅との連携

北海道新幹線札幌駅との一体的な整備
更に、東改札口および交通広場を整備し、新たな公共交通システム等の二次交通と接続することで、一大交通結節点形成



都心アクセスの強化

都心アクセス道路(国道5号創成川通)の整備により、交通混雑、交通事故の低減を図り、都市機能を最大化



【札幌駅交通ターミナル整備(イメージ)】

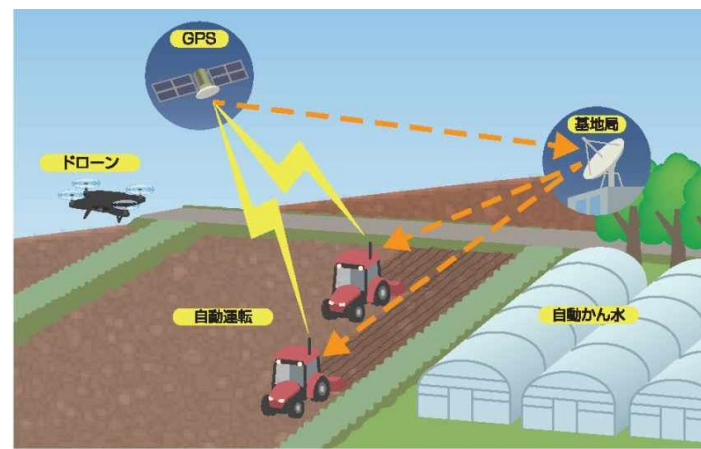
令和7年度の実施（完了）状況

- ・ 国道5号創成川通では測量設計や支障物件補償、改良工を推進。
- ・ 分散するバス停を集約した札幌駅交通ターミナル整備に向けて、現在、測量設計を推進。

取組2 地域の資源・特性を活かし、我が国の食料安全保障を支え、脱炭素化を先導

○ 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展

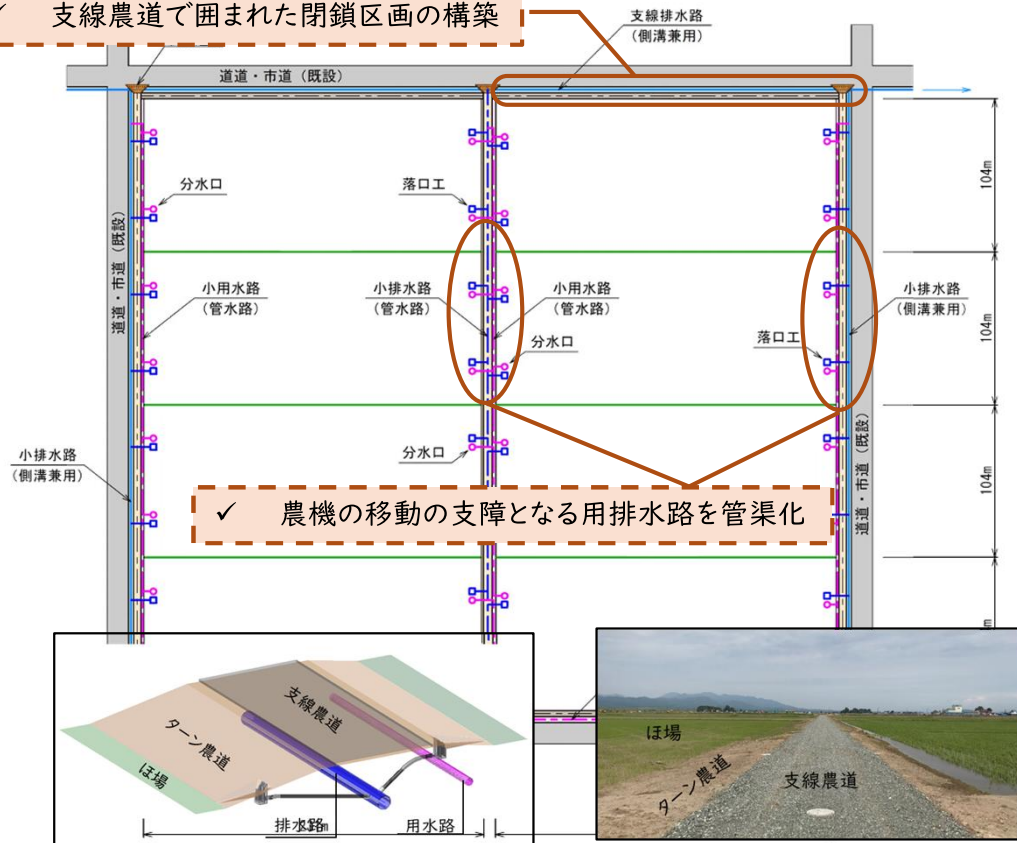
- 地域の農業振興のため、ほ場の大区画化、暗渠排水等の農地の整備、担い手への農地集積による生産コストの低減や高収益作物の作付拡大等により、農業収益力の向上を図ります。
- 末端用水施設のパイプライン化や地下水位制御システムの導入等による水管理の省力化や水稻の直播栽培および水田の汎用化(畑地利用)等による生産性の向上を進めています。
- 作業時間の短縮や均平精度の向上のためGPSを含むGNSS(全地球衛星測位システム)とRTK(高精度な測位方式を可能にする基地局)を組み合わせたRTK-GNSS(全地球衛星測位システム)などのICT情報通信技術を活用した農作業システムの導入が進んでいます。



取組2 地域の資源・特性を活かし、我が国の食料安全保障を支え、脱炭素化を先導

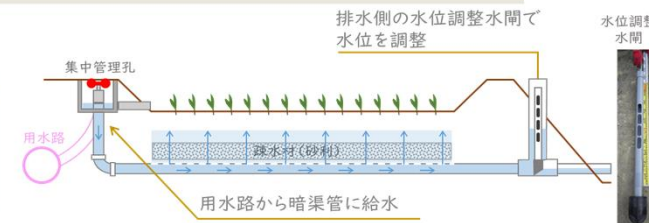
自動走行農機に対応したほ場整備

✓ 支線農道で囲まれた閉鎖区画の構築



✓ 農機の移動の支障となる用排水路を管渠化

地下水位制御システム



- ✓ 暗渠管内の洗浄が可能
- ✓ 暗渠管を通じた地下かんがいが可能
 - ・水稲の直播栽培における生育初期の浅水管理に有効
 - ・水稲作付時の水位制御の省力化
 - ・畑作物や野菜へのかん水が可能

【国営緊急農地再編整備事業 岩見沢北村地区(岩見沢市)】

令和7年度の実施(完了)状況

- ・国営(緊急)農地再編整備事業6地区(6頁参照)において、事業計画に基づき工事を実施。
- ・整備済みほ場は、その翌年度から営農が行われているが、ほ場の区画を大きくし、泥炭土壌に起因する泥濘(ぬかるみ)が無くなることや農機の移動に支障となる用排水路の管渠化、地下水位制御システムによる水田の汎用化により作業の効率化といった効果を発現。

取組2 地域の資源・特性を活かし、我が国の食料安全保障を支え、脱炭素化を先導

- 農業水利施設等の計画的な保全・更新として、農業水利施設の整備、用排水施設の再編整備等を実施し、農業用水の安定供給、農地の排水能力向上、深水かんがいへの対応、及び維持管理軽減を図り、水稻をはじめとする産地収益力の向上を進めています。

【農業水利施設(用水路)の整備】
国営かんがい排水事業北海地区



著しい老朽化(用水路側壁の倒壊)



改修により農業用水
を安定的に供給します

【農業水利施設(排水路)の整備】
国営かんがい排水事業篠津運河下流地区



著しい老朽化(排水路の損壊)

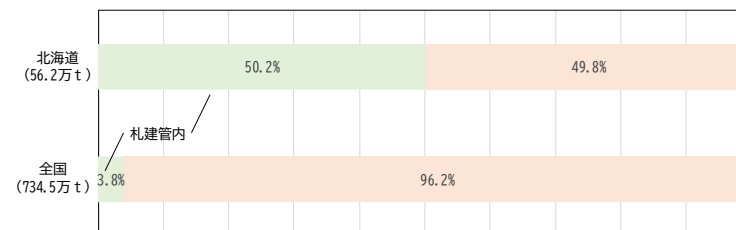


改修により農地の排水能力
を高めます

農業水利施設等の保全・更新により
産地の収益力を向上



●水稻生産量のシェア（令和6（2024）年産）



資料：「令和6年産 作物統計」（農林水産省）
「令和6年産 水稻の市町村別収量（北海道）」（農林水産省北海道農政事務所）
注：管内収量に幌加内町収量分を含む。

令和7年度の実施（完了）状況

- ・ 国営かんがい排水事業等の10地区（6頁参照）で、事業計画に基づき工事を実施。
- ・ 整備済みの農業水利施設では、維持管理軽減の効果が発現。

取組2 地域の資源・特性を活かし、我が国の食料安全保障を支え、脱炭素化を先導

事業種別	地区名	関係市町村名
国営農地再編整備事業	南長沼地区	長沼町
	美唄茶志内地区	美唄市
国営緊急農地再編整備事業	美唄地区	美唄市
	雨竜暑寒地区	雨竜町
	岩見沢北村地区	岩見沢市
	岩見沢大願地区	岩見沢市
国営かんがい排水事業	北海地区	岩見沢市、美唄市、赤平市、三笠市、砂川市、新篠津村、南幌町、奈井江町
	江別南幌地区	江別市、南幌町
	幌向川二期地区	岩見沢市
	篠津運河中流地区	江別市、当別町、新篠津村
	神竜二期地区	深川市、秩父別町、旭川市
	篠津運河下流地区	江別市、当別町
	漁川右岸地区	千歳市、恵庭市
国営施設応急対策事業	新雨竜二期地区	雨竜町、新十津川町
	篠津青山地区	当別町
	お茶の水地区	岩見沢市、江別市
国営総合農地防災事業	雨竜川下流地区	妹背牛町、秩父別町

取組2 地域の資源・特性を活かし、我が国の食料安全保障を支え、脱炭素化を先導

○ 「わが村は美しく-北海道」運動の推進

- 「わが村は美しく-北海道」運動は、北海道内各地での住民主体の地域活性化活動を支援するとともに、貴重な地域資源情報として事業の推進に役立て、農山漁村の発展に寄与することを目的に、運動の一環としてコンクールを開催しています。

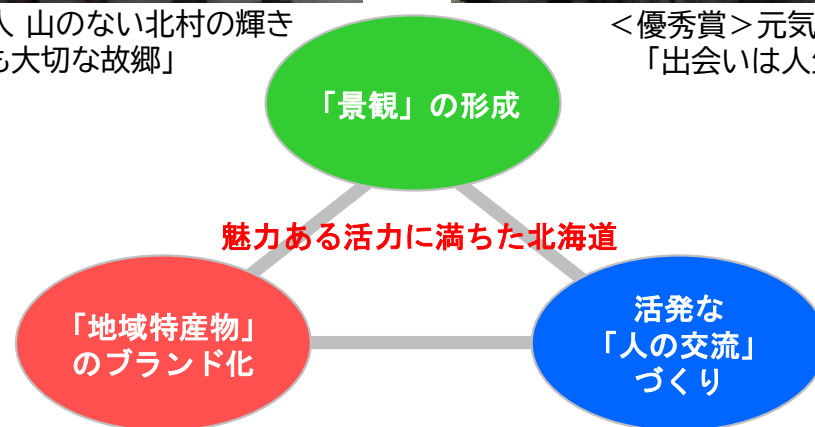
【第11回コンクールで受賞された活動団体の皆さん】



＜特別賞＞NPO法人 山のない北村の輝き
「いつまでも大切な故郷」



＜優秀賞＞元気村・夢の農村塾
「出会いは人生の種まき」



- 参加しよう : 中心となるのは地域に住む人々「地域の資源」を見つけよう
- 広げよう : 活動の輪を大きく、自由に、地域の個性を競い合い高めよう
- 伝えよう : 北海道の「いいもの」を、もっと外へ地域住民の努力と行動に光をあて、広く伝えよう

令和7年度の実施（完了）状況

- ・ 第12回コンクールに向け、応募団体の募集と呼びかけを実施、応募予定3団体と調整中。
- ・ コンクール受賞団体をはじめとする活動団体等と連携のもと、引き続き、地域と協働による取組を推進。
- ・ シーニックバイウェイ北海道の立ち寄り所として、わが村活動との連携を推進。

○ 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

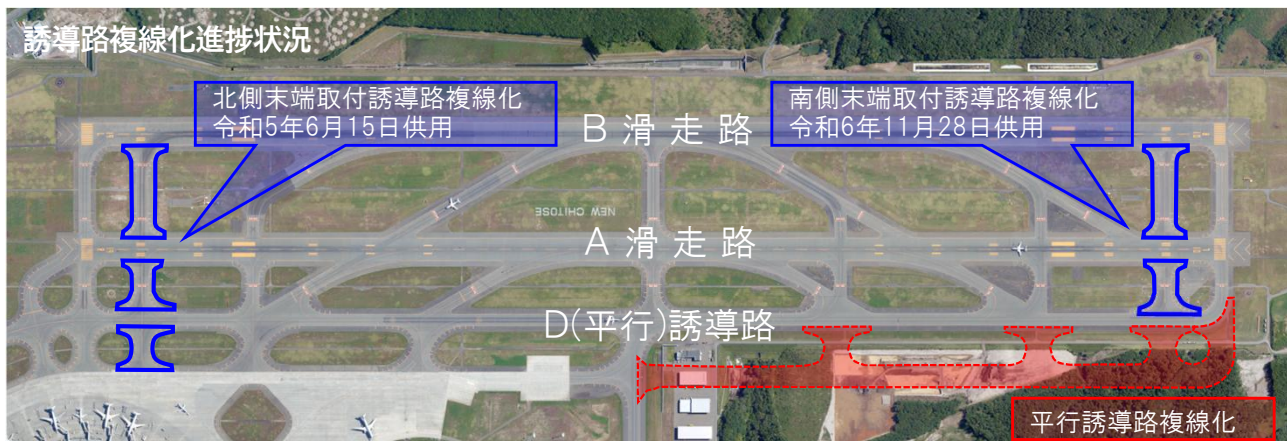
空港の受入機能強化

- 新千歳空港では、除雪作業や航空機のトラブル等による滑走路の一時占有に起因する遅延や欠航が課題となっています。このため、誘導路複線化事業を実施し、冬期の航空機の安定運航を図るなど、航空ネットワークの拠点となる空港機能を強化し、旅行者の受入環境整備に取り組みます。

整備前



整備後



令和7年度の実施（完了）状況

- 末端取付誘導路について、南北ともに完成。北側は令和5年6月15日、南側は令和6年11月28日にそれぞれ供用開始。
- 平行誘導路部については設計の進捗を図るとともに樹木の伐採、埋蔵文化財の調査等を行い用地造成を進めている。
- 引き続き、早期供用開始に向け事業進捗を図る。

○ 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

ドライブ観光の推進

- 安全・安心で快適なドライブを支える道路や「道の駅」の整備、インバウンド観光を見据えた観光地案内や多言語による道路情報提供の充実、公共交通との連携強化等の取組を推進するとともに、観光地案内やエゾシカ衝突マップの配布などの道路情報提供の充実等に取り組みます。
- 令和4年4月に北海道開発局・北海道経済産業局・北海道地方環境事務所・北海道によるワーキングチームを設置し、道の駅設置者である市町村や道の駅管理者と連携し、「道の駅」に急速EV充電施設の設置を目指します。

【利用環境向上に向けた道の駅整備】



観光案内所設置
(道の駅「花ロードえにわ」)

【道の駅への急速EV充電施設設置】



(道の駅「マオイの丘公園」)

【「エゾシカ衝突注意マップ」の更新】



令和7年度の実施（完了）状況

- ・ エゾシカ衝突注意マップを更新し、ドライブ観光を推進。
- ・ 引き続き、自治体や「道の駅」管理者と道の駅に求められる防災や観光、福祉など多様な社会ニーズへの対応に向けた意見交換を行う。

○ 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

「シーニックバイウェイ北海道」の推進

- 地域資源を最大限に活用した美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを目指し、「支笏洞爺二セコルート」「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート」「空知シーニックバイウェイ-体感未来道-」の活動団体と協働した取組を推進します。
- 「世界水準」の観光地形成に向け、地域の活動団体がお薦めする魅力ある景観を有する道路を選定し、景観の維持・形成や誘客に向けた広報等を重点的に実施する＝シーニックバイウェイ「秀逸な道」について、令和5年度から本格的に展開しています。

「秀逸な道」

札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート
(国道230号札幌市南区定山溪国有林L=10km)



「秀逸な道」の看板を設置
【国道230号「森を抜ける公園のような道」】



支笏洞爺二セコルートウエルカム北海道エリア
(国道453号千歳市幌美内国有林L=9km)



「秀逸な道」の看板を設置
【国道453号「支笏湖ブルーに出逢う道」】



支笏洞爺二セコルートウエルカム北海道エリア



札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート



空知シーニックバイウェイ-体感未来道-



令和7年度の実施（完了）状況

- ・ 支笏洞爺二セコルート、札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルートの「秀逸な道」を明示する看板を設置。
- ・ 引き続き、活動団体等との連携のもと、地域と協働による取組を推進。

○ 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり サイクルツーリズムの推進

- 世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向け、多様な関係機関との連携の石狩・空知・上川地域の全長約333kmに及ぶ「石狩川流域圏ルート」、石狩・留萌地域の全長約290kmに及ぶ「石狩北部・増毛サイクルルート」において、案内看板や路面表示の設置等により、安全で快適な自転車走行環境の改善を目指します。
- また、道の駅等へのサイクルラック設置やサイクリスト・応援カーの取組等により、サイクリストの受け入れ環境の充実、情報発信の取組を推進します。



【石狩川流域圏ルート】



サイクルラック設置
(道の駅「しんしのつ」)



サイクリスト・応援カー



【石狩北部・増毛サイクルルート】

令和7年度の実施（完了）状況

- 令和7年度は、石狩川流域圏会議（サイクルツーリズム推進ワーキンググループ等）を開催し、石狩川流域圏走行会を実施。実施計画（アクションプラン）などについて協議。
- 「石狩北部・増毛サイクルツーリズム推進協議会」及び「石狩川流域圏ルート協議会」では、協議会の取組に賛同いただいた国道維持除雪工事受注者、河川巡視業務受注者の協力のもと、道路・河川の巡回中に自転車用工具と空気入れを無料で貸し出しする「サイクリスト・応援カー」の取組を実施。

○ 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり 「かわたびほっかいどう」プロジェクトの推進

- 世界水準の観光地の形成を目指し、四季折々の川の自然環境や景観、水辺活動やサイクリング環境など河川空間が有するポテンシャルを活用したツーリズムを推進します。
- 川に関する情報の効果的な発信、住民や観光客の水辺利用や周遊のサポート、各地域・分野の関係者間のネットワーク強化による水辺利活用に係るニーズの発掘・マッチングの促進、地域と連携した魅力的な水辺空間の創出等により、地域づくり・観光振興に貢献します。



自然再生地における イベント(南幌町)

幌向地区自然再生地では、幌向湿原での体験イベントとして湿生植物の移植などを実施 (主催:ふらっと南幌 等)



旅行会社と連携した ダム見学ツアー (三笠市)

令和6年3月に完成した新桂沢ダムと現在建設中の三笠ぼんべつダムの見学会を実施 (主催:幾春別川ダム建設事業所)



江別市かわまちづくり との連携(江別市)

江別駅周辺をアイスキャンドルで照らすイベントを実施 (主催:江別河川事務所)



令和7年度の実施(完了) 状況

- ・ 地元の団体等が主催する水辺イベントにおいてブースを出展し、河川部門「かわたびほっかいどう」、道路部門「シーニックバイウェイ北海道」、農業部門「『わが村は美しくー北海道』運動」等をPR
- ・ バスツアー会社と連携したダム見学ツアーや意見交換会を実施。
- ・ 石狩川流域の河川区間に関する見どころやイベント情報について「かわたびほっかいどう」公式HP等で情報発信
- ・ 舞鶴遊水地を活用したタンチョウ観察・ものづくりツアーが民間会社主導で開催。
- ・ 令和7年8月、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組として、千歳市が策定した「かわまちづくり計画」が、国土交通省かわまちづくり支援制度に登録。



○ 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり 滝野すずらん丘陵公園におけるインバウンド観光の推進

- 「自然と人・人と人のふれあい」を基本テーマとし、多様なニーズに対応して四季を通じた利用促進を図るため、花フェスタ（チューリップ・すずらん等）、滝野スノーフェスティバル、森の中で音楽やソリ遊びを楽しむ森フェス等、様々な野外レクリエーション活動を展開するとともに、快適・円滑に公園を楽しむための環境整備を推進しています。

【チューリップすずらんフェスタ】



【滝野スノーフェスティバル】



※写真は過年度のもの

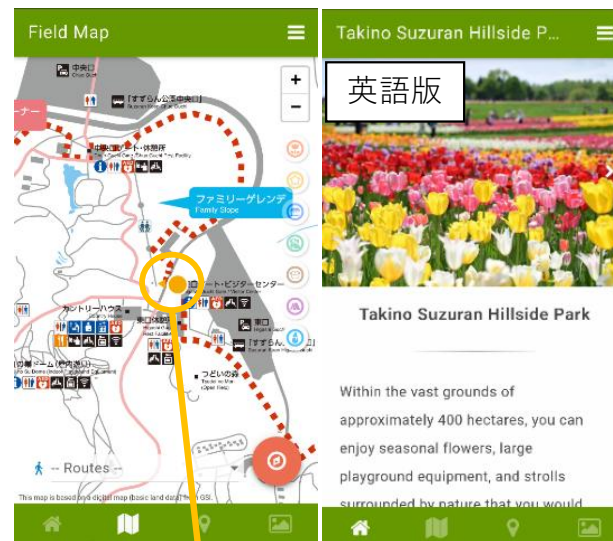
【地下歩行空間の広告掲示】



【4カ国語版ガイドブック】



【滝野公園デジタルマップ】



現在地を把握可能

英語、中国語、
韓国語の3カ国語
に対応

【地下鉄駅構内の広告掲示】



※写真は過年度のもの

令和7年度の実施（完了）状況

- ・ 「4カ国語（英語、中国語、タイ語、韓国語）のガイドブック」を配布、「翻訳機等による公園案内」の取組を継続。
- ・ 現在地や各種施設情報などがスマートフォンで把握可能な「滝野デジタルマップ」を公開。3カ国語（英語、中国語、韓国語）に対応しており、インバウンド観光の利便性向上となっている。
- ・ 令和7年度冬季のホワイトシーズン（12月～翌3月）は、令和7年12月23日から滝野スノーワールドとしてオープン。1月31日・2月1日には滝野ならではの雪あそびや各種アクティビティを楽しめる滝野スノーフェスティバルを開催。
- ・ 札幌市等と連携を図り、市営地下鉄駅構内や地下歩行空間の広告掲示による観光旅行者の来園に向けた働きかけを実施。

○ 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

公共空間の利活用による地域の活性化支援

- 「北海道“みりよく”発信プロジェクト」と題して、札幌駅前通地下歩行空間「チ・カ・ホ」（北1条エリア）において、道内各地の地域情報や「シーニックバイウェイ北海道」の取組を紹介するポスターの展示やパンフレットなどの配付を通じて、北海道各地の魅力ある地域の情報を発信しています。



ウポポイのPR



「シーニックバイウェイ北海道」
「秀逸な道」の取組紹介

令和7年度の実施（完了）状況

- ・ 令和7年3月、6月、9月及び12月の計4回開催。
- ・ 道内各地の「食」や「観光」、各地で開催されるイベントのほか、「ウポポイ」（北海道白老町）、「シーニックバイウェイ北海道」などの情報発信を通じて、地域支援、地域の活性化を推進。

○ 自然共生社会・循環型社会の形成

石狩川流域における生態系ネットワークの形成

- 石狩川流域の自然を次世代へつなぎ、動植物が安心して暮らせる「健全な生態系ネットワーク」の形成をめざして、河川での生物のすみかを守り・再生する取組を進めています。
- 地域の暮らしや産業と自然が共に生きることを目指して、令和5年度から「石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会」を立ち上げ、関係機関と連携して活動しています。
- 令和7年度には、イトウを象徴とした「イトウも棲めるまちづくり推進協議会」を発足し、生息環境の保全と地域の魅力向上を両立させる取組を広げています。

学識者、北海道開発局、環境省、北海道、市町村、企業、団体等による健全な生態系ネットワークの形成の促進



第3回 石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会(令和8年2月)

- 当部が整備した千歳遊水地群に、タンチョウが毎年飛来しています。
- 令和7年度は、舞鶴遊水地(長沼町)などでヒナの誕生が確認されました。
- 空知総合振興局管内で実に100年以上ぶりのタンチョウのヒナ誕生となった令和2年から、6年連続でのヒナ誕生となります。



誕生したヒナ

令和7年(2025)5月12日撮影



飛翔する親鳥と幼鳥

令和7年(2025)9月18日撮影

有識者、自治体、地域住民などと連携したタンチョウ保全活動の成果
(写真提供:タンチョウも住めるまちづくり検討協議会)

令和7年度の実施(完了)状況

- ・ 生態系ネットワークの全体構想や、各地での取組の共有・拡大、情報発信などを担う広域的な連携の場として「第3回石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会」を令和8年2月に開催。
- ・ 令和7年度より「イトウも棲めるまちづくり推進協議会」を新たに設立し、取組を開始。本協議会は、イトウをシンボル種とした生態系ネットワーク形成を推進するとともに、イトウを活用した地域振興・経済活性化を目的としている。
- ・ 「タンチョウと共存できる流域づくり協議会」についても継続的に開催し、関係機関や自治体等と連携のもと、地域との共存に向けた取組を推進している。